

米テクノロジー企業のイノベーションは続く



シニア・ストラテジスト 石黒英之

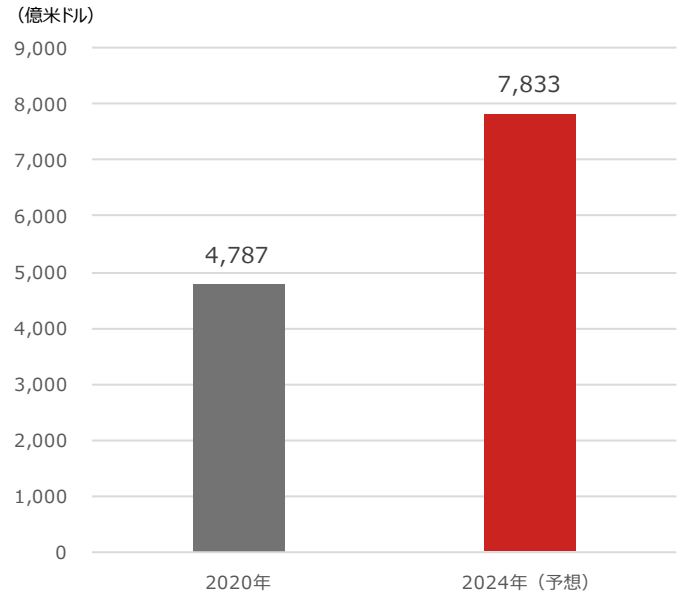
ポイント① 米国企業がイノベーションをけん引

2010年代は米巨大テクノロジー企業が様々なイノベーションを起こしましたが、今後もこうした流れは続くと考えられます。中でも期待されるのは「メタバース」や「宇宙」といった分野です。彼らは次なるイノベーションを念頭に置いた経営を行っており、2010年代のスマートフォンやAI（人工知能）、SNS等の本格普及は、潤沢なキャッシュフローを獲得するための手段だったともいえます。前期のフリーキャッシュフロー（純現金収支）は、米アップルが930億米ドル、米マイクロソフトが561億米ドル、米アルファベットが428億米ドルとなっており、潤沢な資金力を元手に新たな需要を創出していくと考えられます。

ポイント② メタバースと宇宙等が有望分野

メタバースはインターネット上の仮想的な3次元空間のことで、自分の分身であるアバターで交流したり、音楽ライブを鑑賞したりする新しい消費空間が誕生するほか、遠く離れた従業員と一緒に働くバーチャルオフィスにもなると考えられます。メタバースの市場規模は2020年の4,787億米ドルから、2024年には7,833億米ドルに急成長する見通しです（右上図）。また、宇宙分野も有望とみられています。宇宙ビジネスというと商業衛星分野などが身近ですが、最近では移動ビジネスへの注目度も高まってきました。宇宙船で移動すると、30分前後で世界の主要都市間を移動できると考えられており、移動という概念が大きく変わる技術革新といえます（右下図）。FRB（米連邦準備制度理事会）の金融政策正常化が景気や企業業績に与える影響も懸念されますが、米テクノロジー企業は潤沢な資金を武器に、新たな需要を自ら作り出していくことで成長を続けると考えられ、引き続き有望な投資対象となりそうです。

メタバースの市場規模



期間：2020年と2024年の比較
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

主要都市間の旅客機と宇宙船の移動時間比較

出発地	到着地	旅客機	宇宙船
東京	シンガポール	7時間10分	28分
ロンドン	ニューヨーク	7時間55分	29分
ニューヨーク	パリ	7時間20分	30分
シドニー	シンガポール	8時間20分	31分
ロサンゼルス	ロンドン	10時間30分	32分
ロンドン	香港	11時間50分	34分

（出所）スペースXより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、潤沢な資金力（フリーキャッシュフロー）の紹介を目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。